

羅針盤



2018年9月7日(金) 第58号

＝ 9月のことば ＝

目的地は一夜では変えられないが、進む方向は一夜で変えられる。
(ジム・ローン (1930-2009) アメリカの作家)

西日本を襲った集中豪雨、非常に強い勢力のまま駆け抜けた台風 21 号、そして北海道で起きた大地震。今年は、大きな被害をもたらす自然災害が多い印象がある。たとえ備えていても、それを上回るような力を、自然は私たちに繰り返し見せつける。被害に遭われた方々には、心からお見舞いの気持ちを届けたいものです。

さて、台風 21 号関連のニュース映像を見ていて、我が目を疑うような映像を見た。小さな子どもを乗せたベビーカーに傘をさしかけながら、雨と強風の中を歩く親子が映し出されていたのだ。あの状況下で、ベビーカーを押して出かけなければならない事情があったのかもしれないが、映し出された親の表情からは切迫感は感じられなかった。いつどこで災害に遭遇するかはわからない。そういう意識を持ち、危機を回避する力を身に付けていなければならないと思う。

定期考査の結果は 1 年半後の自分の姿につながると考えよう

学校の勉強と受験勉強は別、と考えている人に出会うことがあるが、そうだろうか。覚えなければいけない知識、身に付けなければいけない技術は、学校で学んでいることそのものです。それが入試で問われるのです。黎明は 1 日 7 校時授業ですが、家庭と塾等を合わせても、1 日 7 時間勉強できている人はいるだろうか。土日は授業が無いということで均したとしても 1 日 5 時間だ。この時間を有効に使わない手はないはず。まもなく期末考査。結果は 1 年半後の自分の姿につながっているということを自覚しよう。

		2018年度「前期末考査」 考査時間割		
		1校時	2校時	3校時
13日(木)	文	現代文	保健	数学Ⅱ
	理	現代文	保健	数学Ⅱ
14日(金)	文	日本史A / 世界史A	地学基礎	コミュ英語Ⅱ
	理	世界史A	生物 / 物理	コミュ英語Ⅱ
18日(火)	文	古典	家庭基礎	政治経済
	理	古典	家庭基礎	化学基礎
19日(水)	文	数学B	日本史B / 世界史B	英語表現Ⅱ
	理	数学B	地理B	英語表現Ⅱ

もうすぐ前期末考査になります。計画的に学習をすすめましょう。

この夏の経験から (2)

『 海外研修 』

3組 柏木 レナ

私は夏休みのうちの3週間をアメリカで過ごした。福島・宮城・岩手から100人の高校生が選ばれ、アメリカで地域貢献やリーダーシップについて学ぶというプログラムに参加したからだ。25人のグループに分かれ、毎日一緒に活動した。授業はとても自由な雰囲気、安心感のある温かい場所空間だった。最終的には、英語でのプレゼンに挑戦した。週末には、サンフランシスコを観光したり、2泊3日のホームステイをしたりした。おじいちゃん・おばあちゃんの家だったため、話すのがゆっくりで結構聞き取れた。お盆に遊びに来た孫のように扱ってくれて、楽しい時間だった。しかし、大学内で話しかけた同世代の子たちの英語は、あまり聞き取れず悔しかった。もっと英語力があつたらこの子たちともっと話せるのになと思ったので、英語を頑張ろうという気が湧いた。3週間一緒に過ごしたみんなと、支えてくれたアシスタントやインストラクターとは、帰国後も連絡を取りあっていて、かけがえのない仲間となった。10月の事後研修で会えるのが今から楽しみだ。アシスタントやインストラクターはアメリカに住んでいるので、英語が上達したら会いに行こうと思う。毎日予定がぎっしりで忙しかったが、とても充実した3週間だった。日本で過ごしていたらできないような経験がたくさんできたので、参加して良かったと強く思う。

1986年夏、私の体験

1986年8月6日、私は原水爆禁止世界大会の会場にいた。「あの時」と同じ快晴で暑い夏だった。閉会全体集会の最後に、会場全体が1つになって、ある歌の大合唱になり、私の目から涙があふれた。涙の理由は、その歌の作詞・作曲が私の高校時代の同級生だったことが大きい。彼とは部活も一緒だった。彼が大学生の時に作った歌だという。一緒に机を並べて受験勉強に励んだことが思い出される。歌詞を紹介したい。

ヒロシマの有る国で
作詞 山本さとし

1. 八月の青空に 今もこだまするのは
若き詩人の叫び 遠き被爆者の声
あなたに感じますか 手のひらの温もりが
人の悔し涙が 生き続ける苦しみが
わたしの国とかの国の 人の生命(いのち)は同じ
このおおい大地のうえに同じ生を得たのに
ヒロシマの有る国で
しなればならないことは
ともるいくさの火種を 消すことだろう

2. かの南の国では 大国がのしかかり
かもくな少年らが 重い銃に身をやく
やせた母の胸に 乳のみ子が泣きさけび
はだしてはだかのまま 逃げまどう子どもたち
故国の土をふむことも 家族と暮らすことも
許されない戦争がなぜに今も起こる
ヒロシマの有る国で
しなればならないことは
ともるいくさの火種を 消すことだろう

私の国とかの国の 人の生命(いのち)は同じ(平等)
このおおい大地の上に同じ生を得たのに
ヒロシマの有る国で
しなればならないことは
ともるいくさの火種を 消すことだろう

8月3日に広島に入り、4日は何人かの被爆者の方々のお話を伺った。メモを取りながら涙が止まらなかった。教師になっていた私は、平和の担い手を育てなければ、と純粋に思った。5日、各地に残る戦跡や祈念碑などを見て回り、夜は外国から来た平和運動家たちと交流した。同じころ、福島では「8・5水害」と呼ばれることになる大水害が発生し、阿武隈川が氾濫した。私にとって忘れられない夏である。

2007年夏、再び広島を訪ねる機会があった。被爆死亡者の名簿を検索できる施設があり、何気なく「け」で始まる名前を検索した。慶徳で始まる名前が数名並んでいるのを見て驚いた。福島に戻って父に尋ねた。父は、「姫路に親戚がいるから、その関係かもしれないな」と言った。広島が少し身近になったような気がした。

来月、黎明17期生も広島を訪れることになる。若い感受性で何かを感じ取ってほしい。

(慶徳)